

## V 推定第一次朝堂院地区東南隅の調査（第136次）

推定第1次朝堂院地区では、これまでに第27・72・75・77・97・102・111・117・119次の発掘調査を実施してきた。その結果、この地区の東半部における遺構の変遷と南門の存在が明らかになった。今回の第136次調査は、推定第1次朝堂院地区の東南隅の様相についての知見を得るために実施したものである。調査区は第111次調査地の南約240m、第119次調査区の東約80mの位置で、南北約40m、東西約70mの範囲である。なお、調査は1982年1月7日に開始し、現在最終段階に達しているが、継続中である。本稿は3月末迄に得た所見にもとづき執筆したものである。

### 遺構

調査区の現状は、南部に東西方向の道路が走り、その北側には側溝が設けられて、さらにその北に接して高圧電線が埋設されている。現道路は、旧農道の上に盛土を施して造成したもので、現道路下の旧道両側には水田の境界杭が東西に打たれていた。旧水田はこの農道の南側で一段低くなっている、また、土層観察用に設けた東側の畔を境にして、その東側で一段低くなっている。したがって、発掘区内では東南の一角が最も低くなっている。

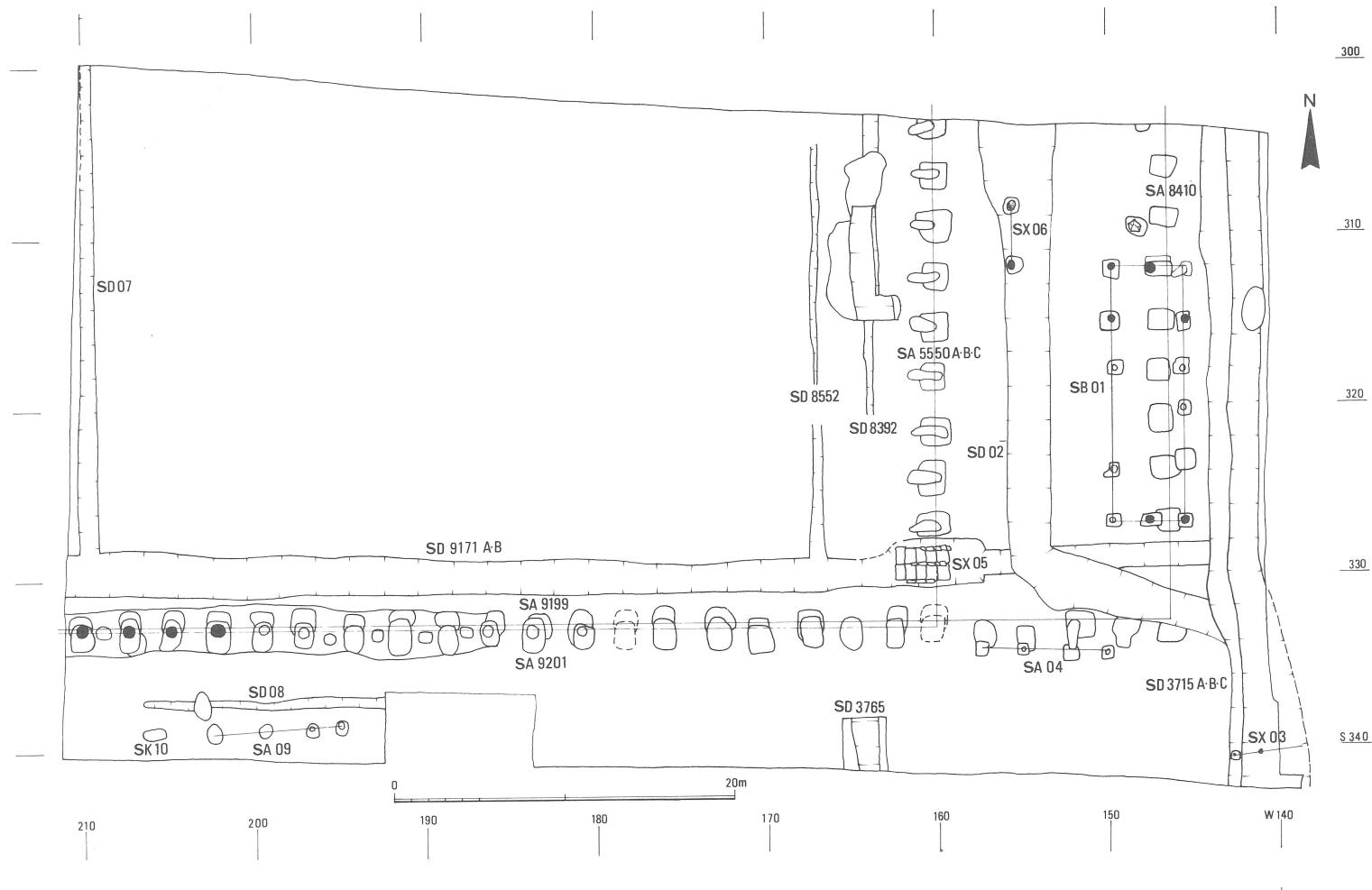
宮造営以前の旧地形は、調査区内で北から南へ向って緩やかに下降し、また東に向っても下降して、推定第2次朝堂院地区との間の谷筋へと続く。遺構は後世の削平をうけているため、整地の区別による時期区分ができない、床土下の近世陶、器片を包含するバラス層を排除したところではほぼ一様に検出した。今回検出した主な遺構は、掘立柱建物1棟・掘立柱塀5条・溝6条・石組の暗渠1条などである。これらの遺構は3時期に大別できる。

**A期** この時期の遺構には、溝SD3765・塀SA8410・9199がある。SD3765は素掘りの南北溝で、幅は約4mである。発掘区の北部と南端で部分的に検出し、この地区を南北して貫流していたことがわかった。遺物の出土はみられない。SA8410は、SD3765の東約17mに位置する南北塀である。掘形のみで柱痕跡もし

くは柱抜き取り穴が認められないのは、第 111 次調査など今回の調査区の北で行なった調査での所見と同じである。柱掘形を掘削した後に計画変更があったのであろう。SA 9199 は東西塀である。B 期の東西塀 SA 9201 と重複しており、柱痕跡の有無については未確認である。ただし、第 119 次調査の成果によると、SA 8410 同様、掘形を掘削したが柱を立てずに埋め戻したものらしい。SA 8410 と SA 9199 とは、推定第 1 次朝堂院の東と南とを区画するために計画したと考えられる。

**B 期** SD 3765 が埋め立てられ、推定第 1 次朝堂院の東を限る掘立柱南北塀 SA 5550 と、南を限る掘立柱東西塀 SA 9201 とによって、朝堂院の区画ができる。SA 5550 の東約 18 m には基幹排水路として、南北溝 SD 3715 が掘られる。SA 5550 は、従来の調査によって 3 時期の変遷が推定されているが、今回の調査区では後世の削平により一番古い時期の掘形と柱抜取り穴を検出したのみである。柱間寸法は約 3 m (10 尺) である。SA 9201 は朝堂院の南門に取り付く東西塀である。西の 4 つの掘形には直径約 60 cm の太い柱根が残っている。東にいくに従って後世の土壌によって搅乱されている。SA 5550 は SA 9201 より南には延びないので、第 1 次朝堂院の東南隅はこの 2 つの塀によって閉じられていたことが判明した。SD 3715 は発掘区東端で検出した。発掘区南端から約 12 m で溝の幅が急に広がっているので東肩は発掘区外になる。溝は新旧二時期あり、旧溝 SD 3715 A・B はさらに二層の堆積層にわかれる。旧溝の一部には杭と板を用いて簡単な護岸を施していた。新溝 SD 3715 C は、旧溝を埋め立てた後、旧溝の西肩に接して掘られたごく浅い幅 1 m 前後の溝である。SX 03 は SD 3715 に架けられた橋である。橋脚 2 本分を検出したが、流れの中程に立っている東の橋脚の周囲には細い杭が打ってあり、木質の遺物が堆積していた。

**C 期** 第 1 次朝堂院の東限が築地塀に改作された時期である。SD 3715 はこの時期にも存続する。東西溝 SD 9171 は南門の脇から東へ流れ、SD 3715 に流れ込む。その際に、朝堂院の東根を凝灰岩の石組暗渠 SX 05 によって通り抜けるので、SA 5550 はこの時期には築地塀に作り替えられているが、築地塀の痕跡は確認で



第10図 第136次調査遺構図

きなかった。おそらく後世の削平によって消失したのであろう。SD 02 は SA 5550 の東方約 6 m のところを南流して東へ斜行する幅 3 ~ 4 m<sup>2</sup> の素掘りの溝である。SD 9171 と SD 3715 とを切っているので、C 期の終り頃に掘られたものであろう。この溝から出土した土器は、平城宮土器編年 IV 期のものが多く、第 V 期も少し含まれている。これ以前の調査では SD 02 は検出されていないので、発掘区の北方でどのように流れていたのかは不明であるが、奈良時代末のこの地区の様相を考える上で興味がもたれる。

以上に述べた遺構の他に、時期区分未定の南北棟掘立柱建物 SB 01 と南北溝 SD 07 とがある。SB 01 は桁行 5 間（10 尺等間）、梁間 2 間（7 尺等間）で、妻柱が SA 8410 を切っており、その位置が SD 3715 と SD 02 とに規制されているようなので、B 期または C 期に属すると思われるが、建物の性格は不明である。SD 07 も今回の調査ではじめて検出した溝である。第 1 次大極殿院の SB 7802 の東妻と位置がほぼ一致するが遺物も少なく年代や性格は不明である。

### 遺 物

量的には瓦が圧倒的に多く、軒瓦は三百点を越す。SD 9171 の上層には藤原宮式の瓦が一面に埋まっていた。その状況は第 119 次調査の場合と同じである。完形品も多く、短期間に廃棄されて埋められたようである。SD 3715、SD 02 からは平城宮瓦編年第 II ・ III 期の瓦が出土した。

土器は主として SD 02 から出土し、SD 3715 からもそれに次いで出土したが、  
それ以外の出土数はきわめて少量である。SD 02 からは、「□川国」、「供養」、  
「彈正」と墨書した須恵器片と「忌 八□」とヘラ書した須恵器片が出土した。  
その他、完形に近い奈良時代初期に属する須恵器の甕や円面碁の破片も出土。

木器では大型のシャモジや板材が出土した。

木簡は SD 3715 から若干量出土した。現在解読中であるが、「□部大蔵／コ部須  
々支万呂」と人名を 2 行書にしたものや「少疏日下部直三堅□□」、「□木屋坊  
□」と記したものもある。

## まとめ

今回の調査区内は後世の削平をうけていて、整地土層の違いによる遺構の時期区分は SD 3765以外はできなかった。しかし第1次朝堂院地区の東南隅が東面・南面の二つの塀によって閉じられ、東を限る塀は南に延びないことが明らかになった。また、第111次調査で検出された推定第1次朝堂院東第二堂が南へどこまで続くのかは未確認であるが、今回の調査によって、少なくとも朝堂院の南門を入ってすぐ東側の地域にはまったく建物がなく、広場のような状況であったことが明らかとなった。第16・17次調査により、平安宮朝堂院の応天門相当位置に門が存在しないことが確認されているので、第1次朝堂院地区の朝堂区南方に朝集殿があったとすると、藤原宮の朝集殿のように朝堂の一郭の外に独立して建っているのかもしれない。朝堂院の東と南とを限る2条の掘立柱塀は、その造作から廃絶状況まで著しく違っている。すなわち SA 5550 A は柱を抜き取り、SA 9201 は柱根が残存している。また、両者の柱の間隔が異なっており、さらに SA 9201 はその西半部において布掘り状の掘形をもつ。宮造営に際しての施工方法についても興味ある知見が得られたといえる。また、今回新たに検出した2条の溝についても、奈良時代末頃のこの地域の利用のし方について考える上で好資料と言え、今後の調査の成果が期待される。

次 数	調査位置と調査目的	検 出 遺 構	出 土 遺 物
第 131-1 次	宮西北部・佐紀池西	表土から約40cmで地山 近世南北溝 1・東西溝 1・小ピット 2	瓦片
10	宮西北部	表土から約90cmで地山 柱穴状の土壙 1・小ピット 4	ナシ
14	富北辺部 第129次調査区の西隣	表土から約50cmで地山 東に向って段がついて下降する	ナシ
15	宮中央北辺部	表土から約40cmで地山 近世円形土壙 1・斜行溝 1・小ピット 2	近世瓦片
20	大極殿の南（東西2ヶ所）	表土から約40cmで地山（L: 68m） (東区)円形土壙 1・小ピット 6 (西区)小ピット 4	瓦片
23	東院北辺地区	表土から約35cmで地山 中世東西溝 1・近世東西大溝 1	瓦・埴・陶磁器片 土師器・須恵器片
24	北面大垣塙地部分推定地	南では表土下15cm、北では30~60cmで地山、幅 1.4 mの東西溝。南は地山削出の大垣か？	瓦片・土師器
29	宮北辺地区 市庭古墳の前方部	西では表土から 5 cm、東では30cmで地山を確 認。古墳盛土なし。	瓦片 須恵器・土師器片

本文未収録の平城宮内発掘調査地の概要

## 第2部 平城京の調査



次 数	調 査 地 区	面 積	調 査 期 間	備 考
※125補足	右京九条一坊十二坪	大和郡山市觀音寺町	350 m <sup>2</sup>	81 8. 3 ~ 8.14
※ 131-2	右京一条二坊二坪	二条町 1 丁目	207	4.11 ~ 4.24
3	藥師寺西面大垣	西の京町 407 - 1	7.6	中西理恵氏宅
4	左京一坊大路	柏木町 527 - 5	18	泉谷信雄氏宅
5	宮北方 (水上池西)	佐紀東町2173 - 1	18	小山光雄氏宅

次 数	調 査 地 区	面 積	調 査 期 間	備 考
131 - 6	右京一条二坊二坪	二条町 1 - 32 - 10 8 m <sup>2</sup>	'81 6.18 ~ 6.20	白櫨鹿雄氏宅
※ 7	右京六条三坊四坪	六条町字西波464 - 1 180	6.22 ~ 6.30	南都銀行
※ 8	左京一条三坊二坪	法華寺町1132 - 3 60	7. 1 ~ 7. 8	塚本武則氏宅
※ 9	右京六条一坊十四坪	西の京 104 - 3 100	7. 6 ~ 7.15	大西英男氏宅
11	外京五条大路に南接	南京終町出口35 - 1 7	7. 9	一栄住宅KK
12	右京五条一坊十二坪	五条町 135 - 1 30	7.27 ~ 7.29	木本昭二氏宅
※ 13	左京一条三坊十六坪	法華寺町1429 26	8. 3 ~ 8. 4	保健衛生社
※ 16	左京二条四坊九坪	法蓮町金池410 - 2 350	8.31 ~ 9.18	井田政吉氏宅
17	大乗院旧境内	片原町1096 25	9.24 ~ 9.28	県盲人福祉センター
18	右京三条二坊八坪	尼ヶ辻町甲 344 1	9.24	近鉄技研
19	東三坊大路	法蓮町 160 - 6 121	9.28 ~ 9.29	朝鮮信用組合
21	唐招提寺西方院	五条町千手ヶ丘528 22	10. 1 ~ 10. 5	西方院保存庫
22	右京七条二坊十坪 ・十五坪	西の京町 401 24	10. 1 ~ 10. 5	薬師寺八幡宮
25	左京一条二坊九坪	法華寺町988 - 30・38 30	10.13 ~ 10.15	堀口竹男氏宅
26	右京八条四坊一・二 坪境	大和郡山市九条町 448 ~ 451 72	10.19 ~ 10.20	山田政欣氏宅
27	北一条大路西一坊 大路交点	佐紀町 3537 27	10.20 ~ 10.23	西口イカ氏宅
※ 28	右京六条一坊九坪	六条町236 - 2 238 - 2 36	10.27 ~ 10.28	喜多恵二氏宅
※ 30	右京三条四坊七坪	大宮町 5 - 188 - 3 233	'82 1. 6 ~ 1.16	不動興産KK
※ 31	左京二条二坊十三坪	法華寺町250 - 1 251・252 170	2. 8 ~ 2.23	鈴木 勝氏方
32	宮北方	佐紀町 13	2.18 ~ 2.19	塚本惣一氏宅
33	左京一条三坊一・二坪	法華寺東町 10	2.22 ~ 2.23	森田太一郎 恭光氏宅
134 - 1	左京二条六坊十一坪	北魚西町 650	'81 8.27 ~ 10. 6	奈良女子大
2	左京二条七坊三坪	同上 1000	'82 1.22 ~ 5. 4	奈良女子大
※ 135	右京七条二坊十五坪	西の京 414 - 1 450	'81 10.27 ~ 11.20	薬師寺駐車場
137	右京二条二坊十六坪	西大寺南町2247 - 1 750	12. 3 ~ 12.26	明光開発
※ 138	左京三条四坊三坪	大宮町 3 - 214 680	'82 3. 1 ~ 4. 6	日興不動産KK
次数外	西市 2 次	大和郡山市九条町 1120	'81 4. 8 ~ 6.25	吉本工務店
	西市 3 次	同上 300	7.13 ~ 7.31	同
※	西大寺境内	西大寺芝町 1 - 1-5 15	12.15 ~ 12.19	倉庫新築
※	同	同上 26	'82 1.13 ~ 1.18	浴室
※	同	同上 7	2.24	浄化槽設置
※	西大寺東塔	同上 15	2. 8 ~ 2.15・24	基壇修築
※	薬師寺南門 他	西の京町381 - 1 他 116	1.21 ~ 2.23	門新築
	法隆寺境内	生駒郡斑鳩町岡本 '81 4.1 ~ '82 3.31		防災工事

第11図 昭和56年度 平城京内発掘調査地一覧 (※は本書に収録)